

令和4年度研究計画書

令和4年4月8日

研究種類	富士山研究		
研究課題	保全メッセージが人の意識に及ぼす影響に関する研究： 富士山での外来植物防除策を事例に		
研究代表者	三ツ井 聡美		
研究期間	令和3年度 ～ 令和5年度 (3カ年)		
共同研究者	堀内 雅弘、宇野 忠、安田 泰輔	研究協力者	
	研究目的	研究目標	
	外来植物防除マットの使用行動および行動意図の促進に関与する要因を明らかにし、それらの要因に働きかける数種の保全メッセージの効果を実測、比較することで、外来植物の持ち込み防止に関する行動を実際に変化させる保全メッセージの在り方を提言する。	(1) 行動意図および行動に影響する要因の把握 防除マットを使用する行動意図および行動に影響する要因をアンケート調査から明らかにする。 (2) 保全メッセージの効果の検証 防除マットを使用する行動意図および行動に影響すると考えられる保全メッセージを富士山の登山客や一般市民に提示し、その効果を検証する。	
全体の研究計画	<p>自然環境を守るための行動を促す情報（保全メッセージ）は数多く発信されている。その中でも本研究では、外来植物に関する保全メッセージ（外来植物の持ち込みを防止するため、登山前に靴底についた種子等をマットで落とすように求めること）が、人の意識や行動に及ぼす影響に着目する。</p> <p>(1) 行動意図および行動に影響する要因の把握 先行研究から防除マットを使用する行動意図および実際の行動には、①行動に対する態度、②規範意識、③行いやすさ、④リスク認識、⑤場への愛着の5つの要因が影響すると仮定し、アンケート調査を用いて、行動意図に影響すると考えられる要因を明らかにする。アンケート調査は、登山者を対象とした富士山での調査と全国の市民を対象としたWeb調査を行う。</p> <p>(2) 保全メッセージの効果の検証 先行研究や予備調査の結果を参考に、防除マットを使用する行動意図および行動を促す可能性のある保全メッセージを複数作成する。富士山の登山客には登山道入り口にて、保全メッセージを1つ提示し、行動観察とアンケート調査を行う。提示した保全メッセージが、行動意図や実際の行動に影響を与えたのかを検証する。全国の市民を対象としたWebアンケート調査においても保全メッセージを提示した上で、行動意図への影響を検証する。</p>		
前年度研究計画及び研究成果	<p>(調査票と保全メッセージの作成) 富士山でのアンケート調査とWebアンケート調査の実施に向けて、先行研究をもとに、行動意図および行動に影響すると考えられる要因を数値化するための複数の質問項目を設定した。その他に知識や経験を問う設問を組み込んだ調査票を作成した。また、予備調査の結果から、防除マットを使用する行動意図および行動には、規範意識の影響があることや、知識（防除マットの目的の認知）も大きく影響することが示唆された。そこで、規範意識と知識を刺激すると考えられる保全メッセージを作成した。</p> <p>(行動調査とアンケート調査の実施) 富士山の登山道入り口において、これまでに使用されていた看板と知識を刺激すると考えられる保全メッセージを提示した看板を掲げ、6742名の行動を観察し、345名からアンケート調査の回答を得た。また、全国の一般市民を対象としたWebアンケート調査を実施し、1066名からの回答を得た。</p>		
当該年度の実施内容	<p>前年度に実施した富士山でのアンケート調査と、Webアンケート調査の結果を分析し、登山客と一般市民の防除マットを使用する行動意図や行動に影響する要因を明らかにする。当初仮定した要因以外の影響については補足的に富士山でアンケート調査を実施して検証する。</p> <p>保全メッセージが実際の行動を促進する効果については、前年度に実施した富士山での行動調査の分析結果を精査するとともに、追加調査を実施して検証する。</p>		
期待される研究成果	<ul style="list-style-type: none"> これまで効果が不明なまま発信されていた保全メッセージに対して、行動を促すために重点的に働きかけるべき要因を示すことで建設的な改善策の検討が可能になる 富士山での外来植物の防除策として実効性のある保全メッセージはどのようなものなのか、行政担当者に具体的な看板の内容の変更案を提言することが可能になる 		